

一 作戦指導方針 晉中第一期作戦指導要領  
 獨立混成第九旅團ハ獨混第四旅團ト密ニ協力  
 シ八月中旬以耒石太線全線ニ亘リ攻撃ヲ執リ  
 ヲアル八路軍第一二九師主力ヲ其ノ退却ノ  
 好機ヲ制シ之ヲ捕捉殲滅ス  
 各支隊ノ作戦行動ヲ開始シ規正スルモ石太線沿  
 線近ク蠢動シアル敵ノ退却動搖ノ色アルトキ  
 ハ其ノ機ヲ遠スルコトナク神速ヲ第一トシ逐  
 次ニ戦鬪ヲ加入ス  
 二 作戦指導要領 目標線ハ松塔鎮―馬抗鎮ヲ連ス  
 ル線トス

又 各支隊ハ、  
 破シ、執拗ニテ、  
 退路ヲ遮断シテ、  
 トニ努ム。敵ヲ  
 目標線進出後ノ  
 徹底的ニ敵根據地  
 禾生存シ能ハサル  
 軍ノ進撃ニテハ、  
 路ヲ掩撃セシムル  
 ミ特ニ各支隊ノ戰  
 ハ進路兩側ニ退避  
 ニ索出シテ之ヲ剽  
 之ガ爲メ一時進路  
 交又ヲナスモ妨  
 又ハ各支隊行進

女 永野支隊

長

獨立輜重兵第一聯隊第一中隊半小隊  
第三十六師團衛生隊ノ一部

永野歩兵中佐

第三十六師團歩兵一大隊

第三十六師團山砲兵一大隊(中隊二小隊)

三號無線一分隊

獨立輜重兵第一聯隊第一中隊(三小隊)

第三十六師團戰鬥救護隊

入 旅團直

獨立歩三八堤中隊(機関銃一分隊含む)

獨立通信隊

兵站自動車第八十八中隊ノ一小隊

獨立臨時編成衛生機關

四

各支隊ノ行動豫定  
各支隊ノ集合及行動ヲ豫定スルコト  
附圖第

三ノ如シ

右ハ圖上ニ於ケル豫想作戰經過ニシテ實際

作戦ニ方リテハ素ヨリ本豫想ト異ル結果ヲ

生ズバク特ニ進路ノ兩側ニ退避セル敵ヲ徹

底的ニ索出撃滅スル場合ニ於テ然リトス

各支隊ハ現地ノ情況及敵情ニ適應シ本作戦

全般ノ構圖ニ大變化セシメザル範圍ニ於テ

適宜獨斷處置スルヲ要ス

然レドモ作戰全般ノ關係上作戰目標ニハ必

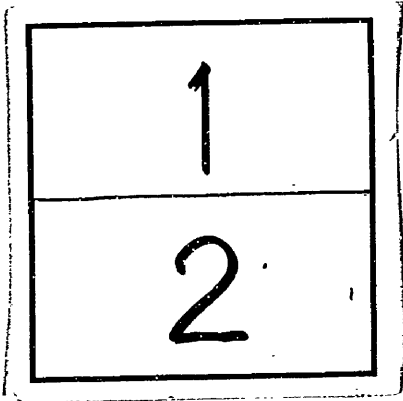
ズ一度ハ進出スルモノトス

2. 反轉作戰ニ方リテ將末敵ノ生存シ能ハザラ

シムル爲燼滅掃蕩ヲ要スル敵根據地區ハ松  
 塔鎮上馬坑鎮一油房溝一慶城村一潤郊鎮一  
 西草生(盧家庄東方約八料)一松塔鎮ヲ連スル線  
 内トス  
 其ノ他ノ地區ニ於テハ止ムヲ得ザルモノ  
 外燼滅掃蕩ヲ實施セザルモノトス  
 各部隊ノ集合ニ關シ附圖ニ示サシムルモノハ  
 適時別ニ各支隊ニ指示ス  
 各支隊ノ翌日ノ行動要旨ハ旅團命令ヲ以テ  
 無電ニ依リ日々電命スルモ電命ヲ受ケ得ザ  
 ル場合ハ別命ヲ待タズ行動豫定ニ基キ獨斷  
 行動スルモノトス  
 各支隊ハ當口ノ行動戰果ヲ適時夕刻迄ニ戰

闘司令所 = 無電報告スルト共 = 敵情其ノ他  
行勅豫定 = 影響ヲ及ボス自己並 = 友軍ノ状  
况ハ密 = 連絡シ且翌日 = 闘スル電命ヲ受領  
スル如ク積極的連絡 = 努ムルモトス  
無電不通ノ場合ハ飛行機ノ通信投下ニ依リ  
命令ヲ傳達スルコトアルベキヲ豫想スルヲ  
以テ空地連絡特ニ注意スルヲ要ス  
五 戦闘經過中爆撃ヲ必要ヲ豫想スル場合ハ事  
前 = 戦闘司令所ニ要求スルモトス  
要求 = 依リ又ハ飛行隊ノ獨断ニ依リ爆撃ス  
ル場合各支隊ハ自隊ノ標示ヲ適切ニスルヲ要  
ス  
六 旅團戦闘司令所ハ八月二十九日榆次ニ前進ス  
ル豫定ナリ  
五 晋中作戰指導要領要圖別紙附圖第一ノ如シ

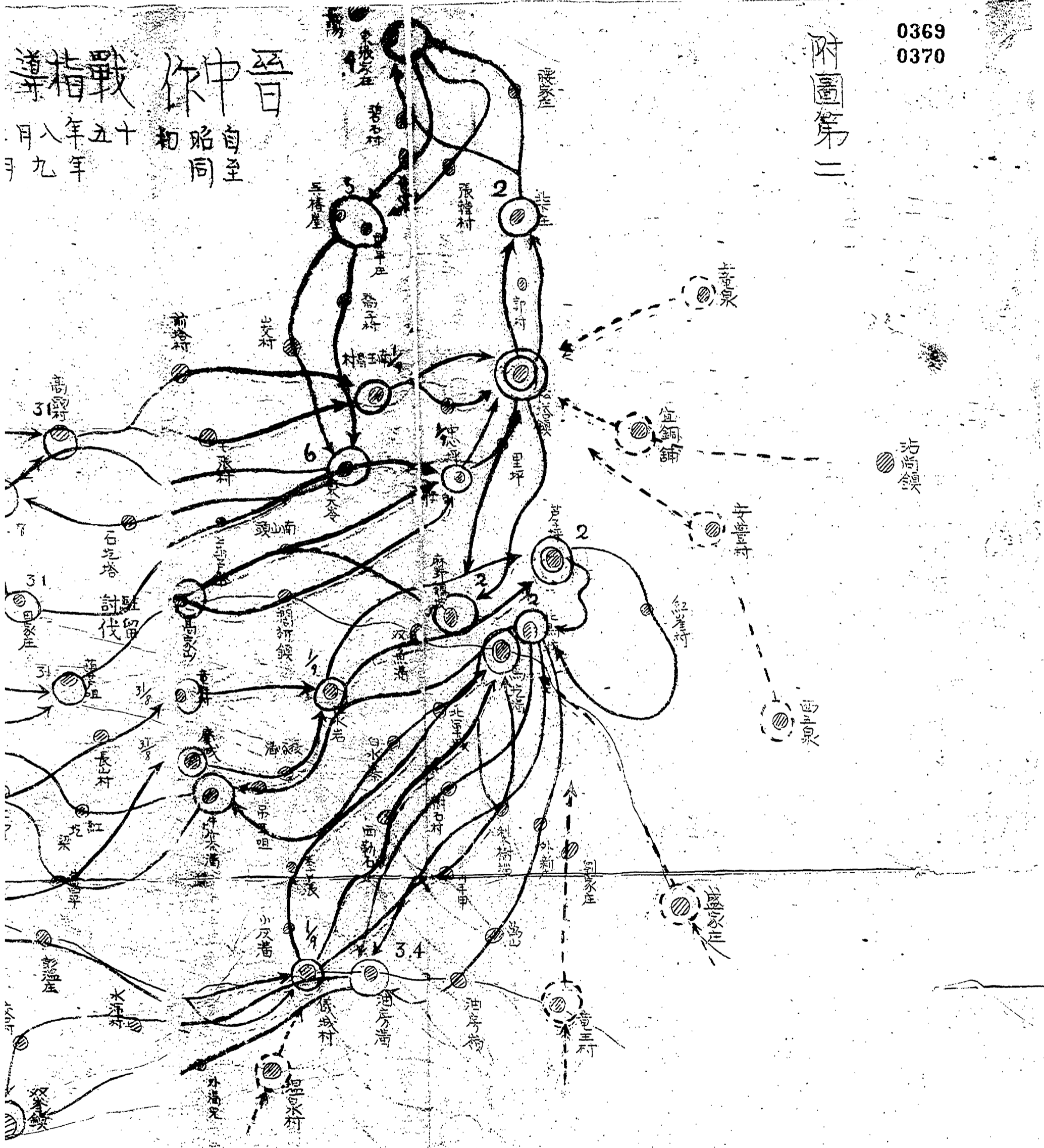
## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	晋中作戦指導要領要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0369  
0370

附圖第二

晉中作戰精導  
自昭初至同  
十五年八月  
九年





# 晉中戰事要領圖

中華民國二十八年八月二十九日  
 九年七月七日

自昭初



20,000

四、3.4トアルハ3日滯在し周邊ノ勢ヲ計伐  
 檢舉ヲ行フモノトス

三、数字ハ一日ミテ指营地出發時ト入出發時刻ハ八時以前トシ  
 支隊長之ヲ決定スルモノトス

二、 計伐ノ爲メ集合位置トス  
 宿營地トス  
 作戰目標トス

一、進行計伐行動  
 赤ハ又轉計伐行動ヲ示ス  
 165ト同時ニ同所ニ進出マル場合  
 進路ニ關シ支隊長於テ協定ス

備考

